

## 第2回生徒による授業評価の分析

1. 学年毎の傾向（評価3，4の割合） ※網掛けは80%未満のもの。

○1年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	99%	94%	98%	94%	99%	95%	93%	96%
地理歴史	95%	85%	92%	79%	95%	89%	89%	96%
数学	83%	75%	74%	76%	81%	73%	92%	93%
理科	98%	86%	93%	96%	98%	97%	91%	96%
芸術	98%	94%	93%	92%	96%	96%	90%	98%
体育	87%	93%	92%	87%	92%	89%	92%	99%
保健	97%	94%	95%	88%	98%	93%	90%	96%
外国語	96%	79.7%	91%	94%	93%	93%	93%	95%
情報	100%	87%	95%	88%	97%	91%	88%	99%
総合	90%	89%	87%	96%	90%	85%	87%	92%

○2年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	96%	89%	92%	92%	94%	92%	92%	94%
地理歴史	93%	88%	89%	89%	93%	91%	91%	92%
公民	100%	96%	98%	96%	100%	98%	94%	98%
数学	89%	75%	81%	89%	88%	87%	90%	90%
理科	95%	83%	90%	93%	95%	91%	90%	91%
体育	97%	96%	95%	94%	97%	94%	97%	99%
保健	99%	94%	95%	97%	98%	93%	91%	92%
外国語	98%	87%	94%	98%	97%	96%	95%	95%
家庭	97%	96%	93%	91%	95%	93%	92%	93%
総合	93%	95%	95%	99%	96%	95%	95%	95%

○3年生

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	97%	90%	92%	86%	95%	92%	93%	94%
地理歴史	100%	90%	92%	100%	100%	92%	94%	97%
公民	100%	92%	88%	96%	96%	92%	88%	92%
数学	99%	81%	96%	91%	99%	99%	94%	95%
理科	97%	89%	95%	86%	97%	95%	94%	93%
体育	99%	98%	98%	99%	98%	99%	98%	100%
外国語	95%	88%	90%	90%	92%	91%	93%	93%
総合	95%	95%	94%	91%	96%	93%	95%	95%

※ A：授業の準備・教材の工夫

B：授業の充実感

C：授業の進め方

D：生徒主体の授業の工夫

E：説明のわかりやすさ

F：生徒への接し方

G：学習への取組

H：態度・姿勢

A～C：授業内容

D～F：指導方法

G～H：本人の取組状況

## 2. 学年毎の傾向の特徴

### ○全体的傾向

第1回授業評価と比較すると、全体的に上昇している。第1回授業評価の8割以下は1年生6教科12項目、2年生2教科4項目、3年生2教科2項目であったが、第2回授業評価では、1年生3教科6項目、2年生1教科1項目、3年生なしと改善がみられる。第1回に比較的多くの項目で課題があった1年生は全体的に上昇しており、特に低評価だった「D：生徒主体の授業の工夫」はほとんどの教科で著しく上昇している。また、数学に関しては6割台の項目がすべて10%以上上昇し7割台となっている。

昨年度や前回の課題であった生徒主体の授業に関して大きく改善していると言える。生徒に良いアプローチができるよう、引き続き授業改善に努めていく必要がある。

### ○国語

全体的に高い傾向にある。特に1年生はすべてが9割台であり、2年生、3年生に関しては、それぞれ1項目を除いて9割台である。課題であった「D：生徒主体の授業の工夫」において、すべて8割以上で、特に1、2年生は9割を超えている。

今年度の第1回授業評価や昨年度の第2回のもものと比較すると、全体的に評価が上がっている。各科目に着目すると、1年生の「国語総合」、2年生の「現代文B」、3年生「国語表現」では全項目で9割を超えている。課題としては、3年生の演習科目での「D：生徒主体の授業の工夫」が他項目より低いことがあげられる。生徒自身で入試問題を解くなどの演習をすること自体が「生徒主体」の授業であると思うが、授業方法を工夫するなどして、生徒同士での話し合いや発表をする機会も活用できるように模索していきたい。

### ○地理歴史・公民

全体的に高い傾向にある。第1回授業評価で、1年生において、「B：授業の充実感」「F：生徒への接し方」が8割以下になっていたが、8割後半となり改善している。しかし、が8割以下となり課題として残る。2年生の公民、3年生の地理歴史・公民においては、100%である項目が多い。

前回の第1回授業評価で、8割未満であった「B：授業の充実感」「F：生徒への接し方」が改善されており、教科における分析・改善の一定の効果があったと考えられる。一方で、1年生の地歴では「D：生徒主体の授業の工夫」で8割未満であり、とりわけ「日本史A」において低い傾向がみられた。これは、教科の特性上、知識・理解を深めるために、教員の説明が必要となる場面が多いことが原因と考えられる。改善策として、試験返却の際に解説を生徒同士に行なわせることが挙げられる。限られた授業時間の中で、知識・理解を定着させ、また、生徒一人ひとりが主体的に考えるために、今後実践していきたい。

## ○数学

第1回授業評価と比較し、ほとんどの項目で上昇している。特に1年生は7割台であった「A：授業の準備・教材の工夫」「E：説明のわかりやすさ」が8割台となり改善がみられる。また、6割台であった「B：授業の充実感」「C：授業の進め方」「D：生徒主体の授業の工夫」「F：生徒への接し方」は引き続き改善が必要であるが7割台と改善した。2年生においてもC、Dは7割台から8割台へ改善している。Bに関しては5%上昇したものの改善はこれからも求められる。3年生はDが79.8%から91%になり大きく改善した。その他の項目はほとんど9割を超える数値である。

全体的に改善はみられるものの、まだ課題を抱えている項目は「B：授業の充実感」と「C：授業の進め方」である。昨年度の課題を踏まえて項目Bと「D：生徒主体の授業の工夫」を関連付けて授業改善を行ってきたが、第1回と比べて最も上昇した項目がDではあるものの項目Bが最も低い評価であることから、主体的に取り組むことができれば充実感が上がるわけではないことがわかった。また、昨年度の評価と比較すると項目Bと項目D以外の評価はすべて下降している。これらのことを全体的に踏まえて、昨年度と今年度の必修科目担当者と話し合い、新たな課題を見つけ、さらなる改善に向けて見直していかなければならない。

## ○理科

全体的に高い傾向にある。「B：授業の充実感」を除いたほとんどの項目で9割を超えている。Bに関しても8割台となっており、特に2年生では71%から83%に大きく改善した。

全体的に高い傾向にあるものの、特に必修科目の中で「B：授業の充実感」の1又は2の割合が他の項目に比べやや高かった。これと関連する可能性があるのは「G：学習への取組」であり、「物理基礎」、「化学基礎」で授業への取組の1又は2の割合がやや高くなっている。一回学んで理解できないこと、あるいは難しいことに出くわした時、解決せずにそのままにする生徒が多少なりともいると考えられる。これは理科で重要な思考力・判断力・表現力の低下につながると思う。解決策の一例として、授業の中で難しい問題を与え、グループワークで考えさせ、正解を出させることが考えられる。課題を与え、他の生徒と考えたり自分で調べたりする中で解決する経験をさせることが必要と考える。これからの授業の中で、取り入れていきたい。

## ○保健体育

全体的に高い傾向にある。「体育」「保健」ともに2、3年生はすべての項目において、9割台と高い評価を維持している。1年生において、第1回授業評価では「D：生徒主体の授業の工夫」のみが8割以下で「体育」79%、「保健」79.7%であったが、体育87%、保健88%と大きく改善した。

全体的に高い傾向にある。「体育」「保健」ともに2、3年生はすべての項目において、9割台と高い評価を維持している。1年生でも、第1回授業評価で8割以下だった「D：生徒主体の授業の工夫」が、「体育」87%、「保健」88%と大きく改善した。これは調査が、1年生の1学期であったので体育では、安全面などを考慮し、保健では単元の内容から一斉指導型の授業形態だったことが影響していると思われる。2学期以降では様々な工夫が施されるようになり授業評価も他学年と変わらないようになった。例年この傾向はあるが、教科の特性上やむを得ないものと思われる。今後も共通認識を持って、全員で授業を工夫して行きたい。

## ○外国語

課題であった2年生の「B：授業の充実感」は第1回授業評価で昨年度の7割台から8割後半に上昇し、今回も8割後半と維持している。しかし、1年生のBは第1回授業評価81%から今回79.7%と下降した。引き続き、「B：授業の充実感」に関して、改善が必要である。その他の項目に関しては、ほとんどが9割台と高い傾向にある。

1年では知識を確認する平易な問題の他に、分析や創造を行う難しい問題がある。そのことが、「だいたい理解できている」と自覚できない要因の一つであると思われる。唯一の答えがない問いにも解答例を示すなどして安心感を与え、論理的思考力を高める学習を続けていくことが課題である。

2年では「D：生徒主体の授業の工夫」の評価4が1学期から2学期にかけて急激に増加した。「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業において、retellingの練習及び発表を全員に対し実施した。「英語表現Ⅱ」では文法問題に取り組む際、解答・解説を生徒中心に行わせたことが効果的であったと思われる。

## ○総合

1年生において、9割台から8割後半へ下がってしまった項目はあるものの、全体を通して高い傾向にある。特に2年生、3年生は9割後半が多い。

全体的に高い傾向にあるものの、より良い探究学習を進めるためには、更に指導の技術向上が求められる。個々の取組を全体に還元していくような支援体制を作っていく必要がある。

3. 教科毎の傾向（評価3，4の割合）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	97%	91%	94%	90%	96%	93%	93%	95%
地理歴史	95%	86%	91%	84%	95%	90%	90%	95%
公民	100%	95%	97%	96%	100%	98%	93%	97%
数学	88%	76%	79.9%	84%	86%	83%	91%	92%
理科	97%	85%	92%	93%	97%	94%	91%	94%
芸術	98%	94%	93%	92%	96%	96%	90%	98%
体育	93%	96%	95%	93%	95%	94%	95%	99%
保健	98%	94%	95%	92%	98%	93%	91%	95%
外国語	96%	85%	92%	94%	94%	93%	93%	94%
家庭	97%	96%	93%	91%	95%	93%	92%	93%
情報	100%	87%	95%	88%	97%	91%	88%	99%
総合	93%	93%	92%	95%	94%	91%	92%	94%

参考1（2016年 第1回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95%	89%	90%	82%	94%	89%	90%	93%
地理歴史	91%	79.8%	83%	87%	89%	79.6%	86%	92%
公民	98%	92%	96%	97%	100%	96%	89%	97%
数学	85%	67%	73%	73%	82%	77%	89%	90%
理科	94%	81%	89%	87%	95%	90%	89%	93%
芸術	98%	89%	92%	76%	94%	93%	81%	97%
体育	94%	97%	96%	87%	96%	94%	91%	98%
保健	96%	93%	95%	87%	96%	89%	86%	94%
外国語	94%	83%	87%	91%	90%	88%	91%	94%
家庭	96%	91%	91%	85%	95%	90%	88%	90%
情報	98%	83%	92%	75%	95%	92%	87%	95%
総合	94%	93%	94%	96%	95%	93%	92%	93%

参考2（2015年 第2回 生徒による授業評価）

	A	B	C	D	E	F	G	H
国語	95.2%	88.4%	91.5%	76.9%	94.2%	88.2%	87.8%	92.3%
地理歴史	95.9%	87.9%	91.1%	88.9%	96.8%	89.2%	88.6%	94.2%
公民	98.1%	91.6%	96.7%	79.4%	99.5%	94.9%	92.1%	97.2%
数学	93.3%	71.3%	83.4%	79.3%	91.7%	84.7%	89.3%	90.6%
理科	94.8%	80.1%	88.4%	79.7%	91.0%	88.0%	87.6%	91.1%
芸術	97.4%	96.1%	95.3%	92.7%	97.9%	96.1%	93.6%	97.4%
体育	96.4%	98.9%	96.7%	89.8%	96.4%	95.6%	96.4%	96.7%
保健	95.5%	93.6%	92.5%	92.1%	96.1%	87.8%	86.9%	94.4%
外国語	95.5%	85.0%	88.5%	95.0%	93.2%	90.6%	89.4%	92.3%
家庭	95.1%	95.6%	94.2%	81.9%	93.4%	88.9%	88.9%	91.6%
情報	99.5%	88.9%	93.1%	80.4%	96.3%	94.2%	88.9%	98.4%
総合	89.7%	92.4%	91.3%	93.9%	91.7%	87.1%	87.7%	91.6%

#### 4. 教科毎の傾向の分析

##### ○授業内容

###### 「A：授業の準備・教材の工夫」

すべての教科で高い評価を得ている。特に、公民、情報は 100%である。また、数学以外の教科で9割台と高い評価となっている。常に授業改善を念頭に置いて教材研究が行われている成果であると思われる。

###### 「B：授業の充実感」

全体的に上昇した教科が多い。地理歴史は第1回授業評価の 79.8%から今回 86%と改善している。数学は第1回授業評価の 67%から今回 76%と改善したが、引き続き改善が求められる。

###### 「C：授業の進め方」

第1回授業評価では7割台1教科、8割台3教科、9割台8教科と全体的に高い評価ではあったが、今回は数学以外の教科で9割台と、とても高い評価になっている。数学は 73%から 79.9%と改善させているが、引き続き改善が求められる。

##### ○指導方法

###### 「D：生徒主体の授業の工夫」

第1回授業評価で数学 73%、芸術 76%、情報 75%であったが、今回は数学 84%、芸術 92%、情報 88%と大きく上昇した。全体的にも9割台に上昇した教科が多く、本校がこれまでに「思考力・判断力・表現力等」の育成を図って授業改善を進めてきた成果であると考えられる。維持していくためにも引き続き、授業改善を進めていく必要はある。

###### 「E：説明のわかりやすさ」

全体的に高い傾向にある。特に公民は第1回授業評価から連続して 100%であり、数学以外の教科は9割台である。

###### 「F：生徒への接し方」

全体的に高い傾向にある。第1回授業評価では地理歴史 79.6%、数学 77%であったが、今回は、地理歴史 90%、数学 83%と改善している。特に、数学以外の教科で9割台と高い評価となっている。

##### ○本人の取組状況

###### 「G：学習への取組」

全体的に高い傾向にある。第1回授業評価では8割台8教科、9割台4教科となっていたが、今回は情報以外の教科で9割台となっている。これからも生徒が授業に主体的に参加していくような授業の工夫が必要であろう。

###### 「H：態度・姿勢」

第1回授業評価から引き続き、すべての教科において、9割台と全体的に高い傾向にあり、今回は9割後半の教科が多数ある。